

5. 助動詞

1.

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(1) 油は水に浮くものだ。

(float / water / oil / . / on / will)

(2) 彼は兄としばしばテニスをしたものだ。

(would / tennis / . / brother / play / often /
he / his / with)

(3) その窓はどうしても開かなかった。

(wouldn't / . / window / open / the)

[解答]

- (1) Oil will float on water.
- (2) He would often play tennis with his brother.
- (3) The window wouldn't open.

Note

5. 助動詞

1. 助動詞の種類と用法

(1) 油は水に浮くものだ。

Oil / will / float / on / water .

主語の習性・
傾向の will

「浮く」

「水に」

助動詞 will の用法は中学内容も含めて次のようになります。

[will の用法]

- ① 主語の意志「～するつもりだ」
(その場で(急に)決断した意志)
- ② 未来に関する単純な推測「～するだろう」「～でしょう」
- ③ 主語の義務「(彼らは)～しなければならない」
「(あなたには)～していただきます」
(※主に2人称、3人称主語の文に使われる。)

- ④ 主語の拒絶「なかなか～しようとしない」
(※3 人称主語の否定文に多い。)
- ⑤ 主語の習性・傾向「きまって～する」
「よく～することがある」
- ⑥ 勧誘・依頼「～しませんか」「～してくれませんか」

- ① I will do my best. (私は全力を尽くすつもりだ。)
- ② It will rain this afternoon. (今日の午後は雨が降るでしょう。)
- ③ You will take the medicine three times a day.
(あなたは1日3回その薬を飲まなければならない。)
- ④ This window will not shut.
(この窓はなかなか閉まろうとしない。)
- ⑤ Oil will float on water. (油は水に浮くものだ。)
- ⑥ Will you have some more tea? (もっとお茶を飲みませんか。)
Will you turn off the radio? (ラジオを消してくれませんか。)

(1)の問題では「…浮くものだ」と習性・傾向を表していますので、will float を使いましょう。

Note

(2) 彼は兄としばしばテニスをしたものだ。

He would often play tennis with his brother.

過去の習慣

「よく～したものだ」

「しばしば」

※一般動詞の前に置く。

「兄と」

助動詞 will の過去形 would の用法は次のようになります。

[would の用法]

- ① 時制の一致 (過去の意志・推測)

- ② 過去の習慣「(よく) ~したものだ」
- ③ 過去の強い意志「どうしても~しようとした」
「どうしても~しようとしなかった」
(否定文で)
- ④ 丁寧な依頼・勧誘「~していただけますでしょうか」
- ⑤ 現在の弱い推量「たぶん~だろう」

- ① He said that he would do his best.
(ベストを尽くしますと彼は言った。)
- ② He would often go fishing in the river when he was a child.
(子どものころ彼はよく川へつりに行ったものだ。)
- ③ His son wouldn't listen to his advice.
(彼の息子はどうしても彼の忠告を聞こうとしなかった。)
- ④ Would you call me tomorrow morning?
(明日の朝、電話していただけますでしょうか。)
- ⑤ That would be a great idea.
(それはたぶんすごい考えでしょう。)

(2)の問題では「…したものだ」と②の「過去の習慣」を表していますので、助動詞 **would** を使いましょう。

Note

(3) その窓はどうしても開かなかった。

The window wouldn't open.

↑
過去の強い意志
「どうしても~しようとしなかった」

(3)の問題は「…どうしても…なかった」で、③の「過去の強い意志」にあたりますので、**wouldn't** を使います。

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(4) 乗客は正規の停留所で乗せるものとする。

(stop / shall / permitted / at / . / board / bus /
be / passengers / to / regular)

(5) この本は役に立つはずだ。

(book / be / . / this / useful / should)

(6) 天候がとても良いとは運がいい。

(is / the / be / . / should / lucky / it / nice /
weather / that / so)

(7) 彼は彼女が一人でそこへ行くことを提案した。

(suggested / she / . / alone / that / go / he /
should / there)

[解答]

- (4) Passengers shall be permitted to board
at regular bus stop.
- (5) This book should be useful.
- (6) It is lucky that the weather should be so nice.
- (7) He suggested that she should go there alone.

Note

(4) 乗客は正規の停留所で乗せるものとする。

Passengers / shall be permitted to board

「乗客」

「法律・規則」
の shall

「～することを許される」
permit 「～を許す」

「乗る」

at regular bus stop.

「正規の停留所で」
regular 「正規の」 bus stop 「停留所」

助動詞 shall の用法には、次のようなものが挙げられます。

[shall の用法]

- ① 1 人称主語の単純な未来
(まれ、イギリス英語の一部のみ、古い言い方)

- ② 1人称主語の決意 「必ず(絶対に) ~する」
- ③ 2・3人称主語での話者の意志 「~させよう」
「~することになるう」
- ④ 予言…運命・神の意志などによる必然、または将来についての厳粛な予言
- ⑤ 法律・規則など「~するものとする」「~すること」
(現在でも使われている。)

- ① I shall have to sit for the examination.
(私はその試験を受けなければならないでしょう。)
- ② I shall return. (私は必ず戻ってくる。)
- ③ You[he] shall learn the truth.
(あなた[彼]に本当のことを教えてやる。)
- ④ All men shall die. (人皆死すべきものなり。)

ただし、shall は現在では 1 人称と用いられるか、⑤の法律・規則などで使われるだけで、その他の用法は今では使われない古い用法です。

(4)の問題では「乗せるものとする」となっていますが、与えられている単語から「乗ることを許されるものとする」と考えて、規則を表す shall を使い、shall be permitted to board の語順を作りましょう。

Note

(5) この本は役に立つはずだ。

This book should be useful.

「~はずだ」

「役に立つ」

shall の過去形 should の主な用法は次のようになります。

〔should の用法〕

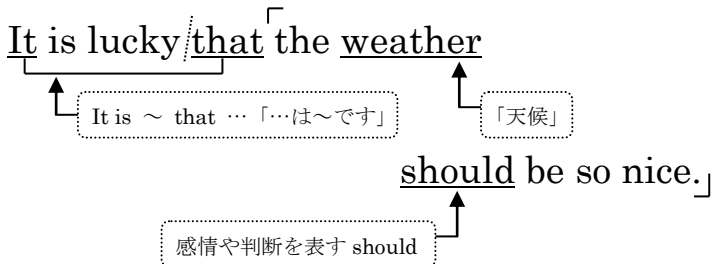
- ① 義務・忠告 「～した方がいい」「～すべきだ」
「～するのは当然だ」
- ② 推量 「～するはずだ」「たぶん～だ」

①の用法は中学内容です。②の用法に注意して下さい。

(5)の問題は「…役立つはずだ」ですので、should be useful の語順を作ることになります。

Note

(6) 天候がとても良いとは運がいい。



should には、上に挙げた①②の他に次のような用法があります。

- ③ 主観的判断や感情の強調 「～する(した)とは」

これは次のような構文で使われます。

〈It is + (感情や判断の)形容詞
+ that + 主語 + **should** + 動詞原形〜〉
「(主語)が～するなんて…だ」

It is lucky that the weather should be so nice.
(天気がこんなにいいなんてついている。)

この構文では It は仮の主語で that 以下を受けています。
感情や判断を表す形容詞は、主に次のようなものがあります。

disappointing (がっかりさせる)	natural (当然な)	
odd (妙な)	sad (悲しい)	strange (不思議な)
proper (適切な)	right (正しい)	
surprising, amazing (驚くべき)		

ただし、この構文では should を使わず主語に応じた通常の動詞の形にしていることもあります。

Note

(7) 彼は彼女が一人でそこへ行くことを提案した。

He suggested that she should go there alone.

suggest

「～を提案する」

提案や要望を
表す should

「一人で」

また、次のような用法でも should が使われます。

④ 提案・要望・命令・決定などの表現

これは、まず次の構文で使われます。

① <It is +(必要・義務・要望の)形容詞
+ that + 主語 + **should** + 動詞原形~>

It is important that she should learn to control her temper.
(彼女が自分の感情を抑えられるようになることは重要だ。)

必要・義務・要望を表す形容詞には次のようなものがあります。

desirable (望ましい) essential (必要不可欠な)
important (重要な) necessary (必要な) right (正しい)
urgent (緊急の) proper (適切な) vital (不可欠の)

また、次のような構文でも使われます。

㊦ 〈主語+(提案・要望などの)動詞
+ that + 主語 + should + 動詞原形〜〉

They suggested that she should remain here until next week.
(彼女は来週までここにとどまるべきだと彼らは提案した。)

提案・要望などを表す動詞には次のようなものがあります。

advise (助言する) decide (決定する) demand (要求する)
desire (強く求める) insist (要求する) order (命じる)
propose (提案する) recommend (推薦する)
request (依頼する) require (必要とする) suggest (提案する)

この構文で、should が使われるのは、もともと should が「～した方がいい」「～すべきだ」「～するのは当然だ」といった義務の意味合いを持っているからだと考えられます。

ただし、アメリカ英語では、㉠でも㊦の構文でも should を使わず動詞の原形を使います。動詞の原形は命令文で使われるように、提案・要望の文が命令に近い意味合いを持っているからではないかと考えられます。

It is important that she learn to control her temper. [learn が原形]

They suggested that she remain here until next week. [remain が原形]

2.

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(1) 私は若いとき、サッカーをしたものだ。

(to / when / was / used / I / soccer / . / I /
young / play)

(2) 彼は最善を尽くすべきだ。

(to / best / . / do / he / his / ought)

(3) あなたは今、家に帰った方がいい。

(better / now / you / home / . / go / had)

[解答]

- (1) I used to play soccer when I was young.
- (2) He ought to do his best.
- (3) You had better go home now.

Note

2. その他の助動詞

(1) 私は若いとき、サッカーをしたものだ。

I used to play soccer when I was young.

↑
used to + 動詞の原形
過去の習慣「よく～したものだ」

↑
「～とき」

used to はその後に動詞の原形をともなって、次のような用法があります。

[used to の用法]

- ① 過去の習慣「以前はよく～したものだ」
[今はそうではない]
- ② 過去の状態「以前は～だった」[今はそうではない]

- ① I used to go fishing every Sunday.
(毎週日曜日には釣りに行ったものだ。)
- ② There used to be a church on the hill.
(以前は丘の上に教会があった。)

would にも、「(以前は)よく～したものだ」と過去の習慣を表す用法がありました。これは回想的に過去の習慣となっていた動作を表しているにすぎず、現在と対比する意識はありません。が、一方、used to は現在はそのような意味を言外に含んでいます。

(1)の問題は「…サッカーをしたものだ」となっていますので、used to play soccer の語順を作りましょう。

Note

(2) 彼は最善を尽くすべきだ。

He ought to do his best.

ought to + 動詞の原形
「～すべきだ」

do one's best
「最善(全力)を尽くす」

ought to には次のような用法があります。

[ought to の用法]

- ① 義務・忠告 「～すべきだ、～した方がよい」
※否定文は 〈ought not to〉
- ② 推量 「(当然) ～のはずだ」

- ① Jane ought to be more respectful to her parents.
(ジェーンは両親をもっと敬うべきだ。)
You ought not to smoke so much.
(そんなにタバコを吸うべきではない。)
- ② She ought to be here soon.
(彼女はもうすぐここに来るはずだ。)

ought はもともと owe 「～を負う」という動詞の過去形だったので、助動詞ではありますが to do とともに用いられています。

義務・忠告の意味では、ought to は must より意味は弱く、should よりやや強いが、should のように頻繁には使われません。

義務・忠告の意味での強さをまとめると次のようになります。

should < ought to < had better < be to < have to < must

(2)の問題では「…最善を尽くすべきだ」なので、ought to do his best の語順にしましょう。

Note

(3) あなたは今、家に帰った方がいい。

You had better go home now.



「～した方がよい」



「家に帰る」

had better も後に動詞の原形を置いて、次のような用法になります。

had better ～ 「～しなさい、～した方がよい」

We had better go to the library.

(私たちは図書館へ行った方がよい。)

ただし、You had better ～ などの言い方は、「しないと！(まずいことになる)、～しなさい」といった忠告・警告・脅迫・命令のニュアンスを含みますので、通例、目上の人には使わない方が無難です。

You had better study math harder.

(あなたはもっと一生懸命に数学を勉強しないと。)

3.

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(1) その答えは正しいはずがなかった。

(have / right / answer / . / been / the /
couldn't)

(2) トムは昨日家を出たのかもしれない。

(have / may / . / home / Tom / left / yesterday)

(3) マイクは病気だったにちがいない。

(must / sick / been / . / have / Mike)

(4) あなたはそこにいるべきだったのに。

(have / . / there / should / you / stayed)

[解答]

- (1) The answer couldn't have been right.
- (2) Tom may have left home yesterday.
- (3) Mike must have been sick.
- (4) You should have stayed there.

Note

3. 助動詞＋完了形

(1) その答えは正しいはずがなかった。

The answer couldn't have been right.

couldn't have + 過去分詞
「～したはずがない」

「正しい」

助動詞の後に完了形を続けた形は、主に過去の推量や実現されなかったことがらを表します。can や could については次のようになります。

(1) could[can] have + 過去分詞

- ① 「～だったかもしれない」
- ② 「～できたのに」〔実際はできなかった〕

- ① The answer could have been right.
(その答えは正しかったかもしれない。)

- ② Tom could have avoided the accident if he had been more careful.

(もっと注意していたらトムはその事故を避けられたのに。)

(2) couldn't[can't] have+過去分詞

- ① 「～した(だった)はずがない」
② 「～できなかつただろう」[実際はできた]

- ① You couldn't have met him. He was here at that time.
(君は彼に会えたはずがない。そのとき彼はここにいたのだ。)

- ② Without your help, I couldn't have passed the exam.
(君の助けがなかったら、私は試験に合格できなかつただろう。)

(1)の問題は「…はずがなかった」なので、couldn't have been の語順にしましょう。

Note

(2) トムは昨日家を出たのかもしれない。

Tom may have left home yesterday.

may have+過去分詞「～したかもしれない」

leave home「家を出る」

may については次のようになります。

(3) may[might] have+過去分詞

- ① 「～した(だった)かもしれない、
～してしまっているかもしれない」
② 「～した(だった)かもしれない(のに)、
～してもよかった(のに)」[実際はしなかった]

- ① He might have got on the train already.
(彼はもう電車に乗ってしまったかもしれない。)
- ② If we had hurried, we might have caught the bus.
(急いでいたら、バスに間に合ったかもしれないのに。)

(2)の問題は「…出たのかもしれない」なので、may have left の語順を作りましょう。

Note

(3) マイクは病気だったにちがいない。

Mike must have been sick.

↑
must have + 過去分詞
「～だったにちがいない」

must については次のようになります。

(4) must have + 過去分詞 「～したにちがいない」

You look very tired. You must have been working too hard.
(お疲れのようですね。きっと働きすぎにちがいないですよ。)

(3)の問題は「…病気だったにちがいない」なので、must have been sick の語順を作ってください。

Note

(4) あなたはそこにいるべきだったのに。

You should have stayed there.

↑
should have + 過去分詞
「～するべきだった(のに)」

↑
「いる、滞在する」

should については次のようになります。

(5) should have + 過去分詞

- ① 「～したはずだ、～してしまったはずだ」
[実際はそうでなかった場合もある]
- ② 「～すべきだった(のに)」 [実際はしなかった]

- ① He left home an hour ago. He should have arrived at the office by now.
(彼は1時間前に家を出た。もう会社に着いているはずだ。)
- ② You should have knocked before you came in.
(あなたは入る前にノックをするべきだったのに。)

(4)の問題では「…そこにいるべきだったのに」なので、**should have stayed here** の語順を作りましょう。

その他の助動詞＋完了形は次のようになります。

(6) **ought to have**＋過去分詞

- ① 「～すべきだった(のに)」 [実際はしなかった]
- ② 「～してしまっているべきである」 《まれ》

- ① **You ought to have done it.**
(あなたはそれをすべきだったのに。)
- ② **You ought to have done it by tomorrow..**
(明日までにそれを済ませてしまうべきです。)

(7) **need not have**＋過去分詞

「～する必要はなかった(のに)」 [実際はしてしまった]

- You needn't have come at 4 o'clock.**
(あなたは4時に来る必要はなかったのに。)

4.

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(1) 彼女があなたに怒るのももつともだ。

(get / . / may / with / angry / she / you / well)

(2) あなたは彼に真実を話した方がよいだろう。

(as / tell / may / . / truth / you / well / the /
him)

(3) 私は彼と住むのなら死んだ方がました。

(well / live / as / might / him / with / . / I /
as / die)

(4) 私はむしろ犬を飼いたい。

(have / dog / would / a / . / I / rather)

[解答]

- (1) She may well get angry with you.
- (2) You may as well tell him the truth.
- (3) I might as well die as live with him.
- (4) I would rather have a dog.

Note

4. 助動詞の慣用表現

(1) 彼女があなたに怒るのももっともだ。

She may well get angry with you.

may well ~
「～するのももっともだ」

get angry with ~
「～に怒る」

助動詞 may を含む慣用表現には次のようなものがあります。

may[might] well + 動詞原形 ① 「～するのももっともだ」
② 「たぶん～だろう」

- ① You may well be surprised at the news.
(君がそのニュースに驚くのももっともだ。)
- ② He may well be over forty years old.
(彼はたぶん 40 歳より上だろう。)

well には「十分に、かなり、道理にかなって、正当に」などの意味もあり、may well では元々の may の意味を well が次のように強めていると考えると理解しやすいでしょう。

- | |
|---|
| may ① 「～してもよい」 + well (正当に～してもよい)
→ 「～するのをもっともだ」 |
| ② 「～かもしれない」 + well (かなり～かもしれない)
→ 「たぶん～だろう」 |

また、might well は may well より控えめな表現(意味は現在)の場合と「～するのをもっともだった(むりもなかった)」(意味は過去)の場合があります。前後の文脈に応じて判断することになります。

(1)の問題は「…怒るのをもっともだ」ですので、may well get angry の語順を作りましょう。

Note

(2) あなたは彼に真実を話した方がよいだろう。

You may as well tell him the truth.

↑
may as well ~
「～した方がよいだろう」

↑
tell A B
「A に B を話す」

さらに、may を含む慣用表現には次のようなものがあります。

may[might] as well + 動詞原形 「～した方がよいだろう」
--

We might as well go back home.

(私たちは家に帰った方がよいだろう。)

この表現は、「どうせ～しなくても特に利点もないのだから～しよう」という気持ちを示します。上の例文では、たとえば、人を待っていてなかなか来ない場合、「帰る方」と「帰らない方」を比べて、結局、相手は来ないのだから「帰らず待っていても特に利点はないので帰ろう」「帰っても損はしない」という意味になります。

(2)の問題では「…を話した方がよいだろう」ですので、**may as well tell**の文を作ります。

Note

(3) 私は彼と住むのなら死んだ方がました。

I might as well die as live with him.

might as well ~ as ...
「…するなら～する方がました」

「住む」

「彼と」

may を含む慣用表現には次のようなものもあります。

may[might] as well ~ as ...

「…するくらいなら～した方がました」

「…するのは～するようなものだ」

I might as well drown as starve.

(飢え死にするくらいなら溺れ死んだ方がました。)

I might as well throw my money away as lend it to her.

(彼女にお金を貸すのは捨てるようなものだ。)

(3)の問題では、「…住むのなら死んだ方がました」となっていますので、**might as well die as live** の語順を作りましょう。

Note

(4) 私はむしろ犬を飼いたい。

I would rather have a dog.

would rather ~
「むしろ～したい」

「～を飼う」

助動詞 **would** を含む慣用表現には次のようなものがあります。

would rather ~ (than ...) 「(…するより) むしろ～したい」

I would rather go than stay. (残っているより行きたい。)

(4)の問題は「…むしろ…を飼いたい」となっていますので、**would rather have** の語順を作ることになります。

